第２学年　社会科学習指導案
単元名：九州地方

指導者：

1　日　　時　：　令和４年７月６日（水）　第５校時

2　場　　所　：　２年３組教室

3　学年・学級　：　第２学年３組（３８名）

4　単　元　名　：　第３章　日本の諸地域　第１節　九州地方

（１）単　元　観

本単元は，学習指導要領社会地理的分野のＣ（３）日本の諸地域　①自然環境を中核とした考察の仕方から，地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事情を中核として，自然災害に応じた防災対策が地域の課題となることなどについて考察することを目的に設定したものである。

本単元では，（５）内容のＣの取扱いについて，イ（ア）中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することをねらいとしている。ウ（ウ）地域の考察に当たっては，先人たちの自然環境との共生方法を知り，活用する側面から，そこに暮らす人々の生活・文化，地域の伝統や歴史的な背景，地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意する必要がある。

（２）生　徒　観

本学級は，明朗快活な生徒が多く，賑やかで元気がよい。授業でもこちらが用意したアクティビティに高い関心・意欲を示し，主体的に取り組む姿勢が見られる。今年度４月に実施した標準学力検査の，社会科の分析表によると，知識・技能の正答率が全国で 58.7%に対して本学級が 60.7%，思考・判断・表現の正答率が全国で 47.8%のところ，本学級が 54.2%と，やや上回る水準であった。昨年度の学習内容が一定程度定着しているので，今年度も引き続き，授業では基礎的知識と，文章による表現力の育成に力を入れていきたい。

一方，中領域別の集計を見ると，歴史的分野の「世界の古代文明と原始時代の日本」の正答率のみ，全国が 53.3%のところ本学級は 41.5%と低く，授業での学びを基礎的知識の獲得につなげられていないことが分かった。このことから，各単元で何を習得し，活用できるようにすべきかを明らかにする必要がある。単元を貫く問いを精選し，授業ごとの問いから知識を積み重ね，単元を貫く問いの答えに至る過程をもって，概念的知識を習得させたい。

（３）指　導　観

九州地方は台風がよく直撃し，近年は線状降水帯の形成で豪雨災害が頻発している地域である。本単元の学習を通して，自然環境や人々の防災意識が，生活や産業，都市づくりに深く関わっていること，豪雨災害に応じた防災対策が課題であることについて考察させたい。前単元の，自然災害に対する備えの学習においては，「三原市ではどのような自然災害が起こることが想定されるか。減災の観点から，事前にどのような対策が出来るだろうか」という問いをもとに，洪水と地震に焦点をあてて具体的な対策を考察した。三原市も３年前に豪雨災害に遭っており，我々にとっては考察に基づく具体的な防災のための施策の必要性を痛感する単元である。九州地方の人々の生活や産業，都市づくりの学習を自分の生活にとり入れ，三原で学び，生きていく生徒個々の今後の生活に関連付け，行動変容のきっかけとなる学びの時間を構成することを目指したい。また，７地方の学習は，それぞれの地方への関心を深めるよい機会となる。地名や特産品，観光スポットなども数多く紹介し，「行ってみたい」と思わせる仕組みも随所に取り入れていきたい。

（４）本単元において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の４点である。

【知識及び技能】		
【思考力，判断力，表現力等】	① 伝える力	② 問題解決能力
【学びに向かう力，人間性等】	③ 協働する力	④ 公共心

この中から，本単元で育成しようとする資質・能力は次の１点に重点を置くものとする。

【思考力，判断力，表現力】② 問題発見・解決能力

・九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づくことができる。

・九州地方の地域の人々の生活・文化や産業などが，自然環境と深い関係を持っていることや，自然環境に応じた防災対策が地域の課題となることなどについて考察し，自然の厳しさと向き合い，共生していくための策を自分ごととして捉え，考えることができる。

5　単元の目標と評価規準

○ 単元の目標

・九州地方の地域の人々の生活・文化や産業などが，自然環境と深い関係を持っていることや，自然環境に応じた防災対策が地域の課題となることなどについて考察し，自然の厳しさと向き合い，共生していくための策を自分ごととして捉え，考えることができる。

【単元を貫く問い】

九州地方の人々は，厳しい自然環境とどのように共生しているのだろうか。

○ 単元の評価規準

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・九州地方の地形や気候の特色が理解できている。 ・火山とともに暮らす人々の工夫や，噴火への備えについて理解できる。 ・シラスの分布と特性を理解し，シラスでの農業の特色を理解することができている。 ・福岡市が発展した背景を，大陸との距離や国内での位置に着目して理解できている。 ・沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について，位置や結びつきの視点に着目し，理解できている。	・火山がもたらす産業や，人々の生活とのかかわりについて考察している。 ・二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を，自然環境に着目し，関連づけて考察，表現している。 ・北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について，アジアの国々との位置関係に着目して考察している。 ・南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を，自然環境の視点に着目し，考察している。	・九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づけている。 ・九州地方について，よりよい社会の実現を視野に，自然環境と生活，産業とのかかわりについての課題を主体的に追究しようとしている。

6　指導と評価の計画　　全６時間　（本時は１／６）

次	学習内容（時数）	評価					
		知技	思判表	主態	評価規準	評価方法	資質・能力（評価方法）
1	九州地方の自然環境（本時） Q.九州地方ってどんなところ？	○		◎	〔主態度〕九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づけている。 〔知技〕九州地方の地形や気候の特色が理解できている。	ノート 調べ学習の態度 発表	② 問題発見能力 九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づくことができる。
2	火山と共にある九州の人々の生活 Q.火山が近くにある生活ってどんなだろう？	◎	○		〔知技〕火山とともに暮らす人々の工夫や，噴火への備えについて理解している。 〔思判表〕火山がもたらす産業や，人々の生活とのかかわりについて考察している。	ノート	
3	自然を生かした九州地方の農業 Q.火山が農業に与える影響って何だ？	◎	○		〔知技〕シラスの分布と特性を理解し，シラスでの農業の特色を理解することが出来ている。 〔思判表〕二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を，自然環境に着目し，関連づけて考察，表現している。	ノート	
4	都市や産業の発展と自然環境 Q.九州地方がここまで栄えたまちづくりの秘訣とは？	◎	○		〔知技〕福岡市が発展した背景を，大陸との距離や国内での位置に着目して理解できている。 〔思判表〕北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について，アジアの国々との位置関係に着目して考察している。	ノート	
5	南西諸島の自然と人々の生活や産業 Q.特別な自然環境と共に生きる沖縄の暮らしの工夫とは？	○	◎		〔知技〕沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について，位置や結びつきの視点に着目し，理解している。 〔思判表〕南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を，自然環境の視点に着目し，考察している。	ノート	
6	単元のまとめ Q．九州地方の人々は，厳しい自然環境とどのように共生しているのだろうか。			◎	〔主態度〕九州地方について，よりよい社会の実現を視野に，自然環境と生活，産業とのかかわりについての課題を主体的に追究しようとしている。	ノート ワークシート 発表	② 問題解決能力 九州地方の地域の人々の生活・文化や産業などが，自然環境と深い関係を持っていることや，自然環境に応じた防災対策が地域の課題となることなどについて考察し，自然の厳しさと向き合い，共生していくための策を自分ごととして捉え，考えることができる。

7　本　時　の　展　開

（1）本時の目標

九州地方の自然の素晴らしさと恐ろしさを知り，疑問点を見つける。

（2）観点別評価規準

◎ 九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づけている。

○ 九州地方の地形や気候の特色が理解できている。

評価方法：授業ノート，調べ学習の様子，発表

（3）育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準
②問題発見・解決能力	A　調べて得た情報を班員全員で共有し，自分の意見を述べ，単元を貫く問いに近い疑問を自ら発言し，今後九州地方を学ぶ上で知りたいことを，具体的に授業ノートに記述できている。 B　調べて得た情報を班員全員で共有し，班員やクラスメイトが発言した，単元を貫く問いに近い疑問に共感し，今後九州地方を学ぶ上で知りたいことを，具体的に授業ノートに記述できている。 C　Bを満たしていない。調べ学習の姿勢がふさわしくない。班での話し合いに参加できていない。授業ノートに自分の考えが記述できていない。

（4）準備物：Chromebook，モニター，補足資料

（5）学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入	○地名探し（5分） ○本時の目標の確認　課題の設定	・授業のカギとなる地名の位置を予め押さえ，写真資料で九州地方のイメージをふくらませ，関心を惹く。 ◆机間指導	
	【本時の目標】九州地方の自然の素晴らしさと恐ろしさを知り，疑問点を見つける。		

展開	○略地図を描いて地形の特徴をとらえる（10 分）	◆作図が苦手な生徒もイメージしやすいよう，絵かき歌のように説明する。多数の資料を併せて提示し，九州地方を大観させる。	
	○雨温図から気候の特徴をとらえる（5 分） 整理・分析	・生徒の発表した内容をかみ砕き，全員の理解を目指す。また「なぜカープは日南でキャンプをするのか」という問いで，知識の活用方法に気づかせる。	○九州地方の地形や気候の特色が理解できている。（ノート，発表）
	○教科書の記述から，九州地方の自然災害について過去の事例をクロムブックで調べる（12 分） まとめ・創造・表現 【主体的・対話的な学びの時間】 クロムブックで過去に九州地方であった自然災害を調べ，班内で情報共有しノートにまとめる。	・調べて得た情報と，班で情報共有した内容はノートに書き留めさせる。 ◆ノートの枠線の書き方を提示する。	☆② 問題発見能力 九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ，人間と自然環境との共生のためには 工夫が不可欠という必然性に気づくことが出来る。 （調べ学習の様子，発表，ノート）
	○班ごとに発表（8 分） まとめ・創造	・聞く側の態度にも配慮を促す。	
	○単元を貫く問いの創造（5 分）	・浮かび上がる問題を生徒の発言から抽出する。そこから単元を貫く問いを創造し，今後の学習に見通しをもたせる。	
	【単元を貫く問い】九州地方の人々は，厳しい自然環境とどのように共生しているのだろうか。		
まとめ	○まとめと感想の記入（5 分） 振り返り	・前単元の防災学習を振り返り，我々にとっても重要な学びであることを再確認する。	

（6）板書計画

目標　九州地方の自然環境の特色を知り，課題を見つける。

第 3 章　日本の諸地域　1 節　九州地方

教 P174①九州地方の自然環境

カルデラ

過去の事例を調べよう

調べた内容

・

・

班で共有した内容

・

・